

27. 管理システム分野における 国際標準化アクションプラン

1. ISO/TC34（食品）/WG8（食品安全マネジメントシステム）

1. 分野の全体概要・最近の動向

食品安全への関心が高まる中、2005年にTC34/WG8において、ISO22000（食品安全マネジメントシステム—フードチェーンのあらゆる組織に対する要求事項）を中心とした食品安全に係る規格が開発された。ISO22000及びISO/TS22004は、規格発行後3年を経過したことから2008年に定期見直し投票が行われ、結果待ちの状況である。2009年は、これらの投票結果を受けてWG8の活動は活発になると考えられる。

なお、TC34では、WG8をSCへ格上げする議論がされており、現在ISO/TMB（技術管理評議会）において投票中である。

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

ISO22000ファミリー規格の見直し（最初の規格発行3年後のもの）に積極的に参画を行う。

3. 重点TCの活動状況

（1）対象としているTC/SC/WG番号及び名称

TC34は、食品及び飼料分野に関する規格、特に用語、サンプリング、検査・分析法、製品規格及び包装、貯蔵、輸送についての規格を作成する専門委員会。

WG8は、食品安全マネジメントシステムについての規格開発を行っている。

（2）対象としているTC/SC/WGの最近の動向（規格化方針・運営方針等）

WG8（食品安全マネジメントシステム）において、次のIS、TSを開発。

- ・ ISO22000：2005（食品安全マネジメントシステム—フードチェーンのあらゆる組織に対する要求事項）
- ・ ISO/TS22003：2007（食品安全マネジメントシステム—食品安全マネジメントシステムの認証機関のための要求事項）
- ・ ISO/TS22004：2005（食品安全マネジメントシステム—ISO22000：2005適用のための指針）

4. 我が国の活動実績

（1）全体概要

TC34に設立されているWG8に対しては、エキスパートを登録し積極的に参加している。行政部門としても農林水産省、厚生労働省、経済産業省が連携を行いながら対応。

（2）活動実績

2008年10月に、パリ（フランス）で、ISO/TC34総会が開催された。

5. 我が国の活動計画

（1）全体概要

2008年度同様、適宜情報の収集を行い、積極的に対応して行く予定。

2009 年は、特に ISO22000 の見直し（最初の規格発行 3 年後のもの）についての議論が行われる予定。

(2) 活動計画

WG8 の新 SC への格上げの議論（現在、ISO/TMB において投票期間中。）を見守りながら対処する。

(3) 中長期計画

ISO22000 の見直しの議論に積極的に参画する。

6. 参考資料集

(1) TC/SC 等活動状況

ISO/IEC	TC 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加地位	国内審議団体	幹事国	日本議長	日本主査	重点分野
ISO	34		8	食品安全マネジメントシステム	P	(独) 農林水産消費安全技術センター	デンマーク			◎

注) ◎印がついているのが重点分野 日本議長、主査には○印

(2) 2008 年活動実績データ

①国際会議実績

a) 参加実績 1 回 延べ 3 人

ISO/IEC	TC	会議回数	参加人数
ISO	34	1	3

2. ISO/TC176 (品質マネジメント)

1. 分野の全体概要・最近の動向

この TC では、品質マネジメントに関連する規格の開発を行っている。ISO 規格の中で最も有名な規格である ISO9001 (品質マネジメントシステム—要求事項) は、2009 年 3 月 15 日で、第 1 版の発行から 22 周年を迎えた。この規格を使用した認証件数は、2007 年末現在で、世界で約 95 万件 (ISO 調査) を数え、認証制度以外のその他のニーズも考えるとこの規格の利用者は多く、また、求められるニーズも多様化しているところ。

また、この TC では、このような品質マネジメントシステムに関する規格とともに、品質マネジメントに関連する支援技術等に関する規格として、開発中のものを含めて、約 20 規格を開発している。

なお、この TC で開発されている規格は、他の TC 等で開発されているマネジメント規格の基本となっている場合が多く、TC207 (環境マネジメント) 等との連携も強くとられている。

近年の特に大きな案件としては、次のとおり。

- ・ ISO9001 : 2008 (品質マネジメントシステム—要求事項)
2008年11月に、要求事項の明確化、ISO14001:2004との整合化等の観点からISO9001:2008が発行された。現在、次期改正のための議論が開始されている。
- ・ ISO9004 : 2000 (品質マネジメントシステム—パフォーマンス改善の指針)
ISO9001の改正に合わせて、改正作業が進められているところで、現在、FDIS(最終国際規格案)化の作業を行っているところで、2009年中には、改正版が発行される予定。今回の改正は、当該分野におけるこれまでの日本国内における研究の成果が国際的に高く評価され、ISO9004の規格の内容を、JISQ9005 : 2005 (品質マネジメントシステム—持続可能な成長の指針) 及び JISQ9006 : 2005 (品質マネジメントシステム—自己評価の指針) の内容に基づいて行われているもの。
- ・ ISO9000:2005 (品質マネジメントシステム—基本及び用語)
ISO9001、ISO9004等の改正内容を踏まえた改正の議論が行われているところ。
- ・ ISO19011:2002 (品質及び/又は環境マネジメントシステム監査のための指針)
対象とする分野を、品質及び環境から、食品安全、情報セキュリティ等に応げるとともに、リモートオーディット(インターネット等の情報通信技術を活用した監査)等の規定を追加すること等の議論が開始されているところ。

このTCで特に重要なポストは、TCとSC2の議長と幹事国ポストであるが、TCについては名誉的なポストとしてカナダが、SC2については実質的なポストとしてイギリスが、多大なリソースを投入して確保しているところ。現在、日本は、SC2のプロジェクトのサブリーダーとして貢献中。

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略(中期的計画及び課題)

ISO9000、ISO9004及びISO19011の改正作業でのリードとともに、次期のISO9001の改正の議論への積極的な参画を行う。

市場ニーズに基づく規格開発を行う。SC3における規格の増殖には反対の立場をとっているところ。反対の立場を取っている規格の例は、次のとおり。

- ・ ISO10014:2006 (品質マネジメント—財務的及び経済的便益を実現するための指針)
- ・ ISO10015:1999 (品質マネジメント—教育訓練の指針)
- ・ ISO10018 (品質マネジメントシステム—マネジメントシステムにおける人々の参画及び力量) : 現在、WD3段階

3. 重点TCの活動状況

(1) 対象としているTC/SC/WG番号及び名称

TC176(品質管理)は、「品質システム、品質保証及び一般的な支援技術を含む一般的な品質マネジメント分野の標準」を制定する技術委員会であり、議長国はカナダ及び中国、幹事国はカナダ。この下に次のSCがある。

- SC1(コンセプト及び用語) : 議長国(ブラジル)、幹事国(フランス)
- SC2(品質システム) : 議長国(イギリス)、幹事国(イギリス、中国)

- SC3(支援技術)：議長国(オランダ、アルゼンチン)、幹事国(オランダ)
- (2) 対象としている TC/SC/WG の最近の動向(規格化方針・運営方針等)
 - ・ SC1 では、現在 SC2 で改正された ISO9001:2008、改正作業中の ISO9004 に合わせて ISO9000 の改正版を発行すべく、作業を開始しているところ。
 - ・ SC2 では、ISO9001:2008 の次期改正のための議論の開始、及び ISO9004 改正の継続審議(現在、FDIS 化が承認されたところ)。
 - ・ SC3 では、ISO19011 の改正作業の開始。

4. 我が国の活動実績

(1) 全体概要

規格策定に関わる審議は、TC の下に設置された個々の SC で対応。

TC176 総会を、2008 年 5 月にノビサド(セルビア)で開催されるとともに、特に 2009 年 2 月には、東京(日本)で開催した。また TC の国際会議に併せて、各 SC、WG 会議を開催。また、規格開発状況により、必要に応じて各 SC、WG で国際会議を開催。

(2) 活動実績

2008 年 11 月に発行された ISO9001:2008 について、2008 年 5 月の TC176 ノビサド総会において飯塚悦功教授(東京大学)が TC176/SC2 議長代行を務める等、ISO9001:2008 の開発をリードした。

ISO9004 の改正作業は、当該分野におけるこれまでの日本国内における研究の成果が国際的に高く評価され、ISO9004 の規格の改正を、JISQ9005:2005(質マネジメントシステム—持続可能な成長の指針)及び JISQ9006:2005(質マネジメントシステム—自己評価の指針)の内容に基づいて行われているもので、2009 年 2 月の東京会合において FDIS 化が承認された。2009 年中に、ISO9004:2009 として発行される予定。

また、ISO19011 の改正作業においては、リモート監査の規定の追加について、日本がリーダーを引き受けている。

5. 我が国の活動計画

(1) 全体概要

ISO/TC176 の次回の総会は、2010 年 6 月にボゴタ(コロンビア)で開催される予定。

FDIS 化が決まった ISO9004 の改正については、2009 年中の発行まで改正作業をリードするとともに、2008 年に改正作業が開始された ISO19011 については、引き続き、積極的に改正作業に参画して行く予定。

(2) 活動計画

ISO9004、ISO19011 の改正等において、積極的に参画して行く予定。

(3) 中長期計画

引き続き、規格開発に積極的に参画するとともに、ISO9001 等の次期改正の議論を睨んだ対応を行う。

6. 参考資料集

(1) TC/SC等活動状況

ISO/IEC	TC番号	SC番号	WG番号	名称	参加地位	国内審議団体	幹事国	日本議長	日本主査	重点分野
ISO	176			品質管理及び品質保証	P	(財)日本規格協会	カナダ			◎

注) ◎印がついているのが重点分野 日本議長、主査には○印

(2) 2008年活動実績データ

①国際会議実績

a) 参加実績 2回 延べ 51人

ISO/IEC	TC	会議回数	参加人数
ISO	176	2	51

b) 日本での開催実績 参加者 約200人

ISO/IEC	TC	SC	WG	開催地	開催期間
ISO	176			東京	2009.02.20-28

3. ISO/TC207 (環境マネジメント)

1. 分野の全体概要・最近の動向

このTCでは、「環境ISO」として親しまれているISO14001（環境マネジメントシステム—要求事項及び利用の手引）を開発していることで有名である。2008年9月1日で、この規格が発行して12周年を迎えたところ。この規格は、組織における環境マネジメントシステムの共通言語として使用されるとともに、第三者認証制度の基準としても国内外で広く使用されている。この規格を使用した認証件数は、2007年末現在で、世界で約15万件（ISO調査）にのぼり、近年の環境に関する取組みの重要性から、環境経営のための有効なツールとして、この規格の普及は一層加速するものと考えられる。

また、このTCでは持続可能社会実現のための規格も開発しているところ。

近年の特に大きな案件としては、次のとおり。

・ISO14067（カーボンフットプリントの算定・表示に関する規格）の開発

2008年6月のボゴタ会合において、我が国をはじめ関係国が共同で国際標準化作業の開始を提案し、2008年11月に承認されたもの。我が国は、「低炭素社会づくり行動計画（2008年7月閣議決定）」に基づき、国内の取組等を踏まえ積極的に貢献しているところである。現在、第一次作業原案（WD.1）の作成が進められており、最終的に、2011年11月の国際規格発行を予定。

・ISO14051（マテリアルフローコスト会計（MFCA））の開発

2007年6月に閣議決定された「イノベーション25（閣議決定）」及び2007年7月に産業構造審議会産業技術分科会がとりまとめた「イノベーション創出の鍵とエコイノベーションの推進」の一環として我が国からNWIPを行い、2008年3月に承認されたもの。現在、CD文書であり、セクレタリー及びコンビナーを日本が務め、規格開発をリードしている。

- ・ IS014005（環境マネジメントシステム—段階的適用の指針）の開発
この規格は、30人程度の組織を主な対象としたもので、組織のIS014001構築までの達成の段階に沿った指針。現在、DIS文書段階で、2010年の発行を目指している。
- ・ IS014066（温室効果ガス—温室効果ガスの妥当性確認及び検証のチームのための力量に関する要求事項、並びに評価のための手引）の開発
現在、WD3文書段階（コメント期限：2009年3月31日～4月30日）で、2011年頃に発行する予定。
- ・ IS014006（環境マネジメントシステム—エコデザインの指針）の開発
IS014001にエコデザインを適用するための規格の開発が開始されたところ。2012年に発行する予定。
- ・ IS014021（環境ラベル及び宣言—自己宣言による環境主張）の改正
1999年版の改正作業が、現在CD文書として開始されているところ。バイオマス、オフセッティング等の用語定義の追加、リニューブルエナジー、カーボンフットプリント、カーボンニュートラル等についての規定の追加、マークの事例の追加等の議論がされているところ。早ければ2010年にも改正版が発行される予定。
- ・ IS014045（環境マネジメント—環境効率評価—原則及び要求事項）の制定
現在、WD文書の段階で、2012年国際規格として発行予定。
- ・ 組織のカーボンフットプリントのテクニカルレポートに関するNWIP
現在、組織のカーボンフットプリントに関するNWIPの投票がかけられているところ（投票期間：2009年3月13日～6月13日）。提案国は、フランスで、規格名称は、「組織のカーボンフットプリント—アクティブデータに関連するIS014064-1の技術的な指針—定量化、—コミュニケーション」。もし、投票が可決となると開発作業が開始され、約3年後に、テクニカルレポートとして発行される予定。
- ・ ウォーターフットプリントのNWIP
現在、ウォーターフットプリントに関するNWIPの投票がかけられているところ（投票期間：2009年3月9日～6月9日）。提案国は、スイスで、規格名称は、「ウォーターフットプリント—原則、要求事項及び手引」。もし、投票が可決となると開発作業が開始され、約3年後に国際規格として発行される予定。

このTCで特に重要なポストは、TCとSC1の議長と幹事国ポストであるが、TCについては名誉的なポストとしてもカナダが、SC1については実質的なポストとしてイギリスが、多大なリソースを投入して確保しているところ。

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

- ・我が国をはじめ関係国が共同で国際標準化作業の開始を提案したカーボンフットプリントの算定・表示に関する規格の開発。
- ・日本からの提案による「マテリアルフローコスト会計（MFCA）」の国際規格の開発。
- ・次期 ISO14001 改正への対応。

3. 重点 TC の活動状況

(1) 対象としている TC/SC/WG 番号及び名称

TC207（環境管理）は、「持続可能な発展をサポートする環境マネジメントシステム及びツールの分野における標準」を制定する技術委員会であり、議長国はカナダ、ブラジル、幹事国はカナダが担当。この下に次の分科会がある。

- －SC1（環境マネジメントシステム）：議長国（イギリス、インドネシア）、幹事国（イギリス、南アフリカ）
- －SC2（環境監査及び関連調査）：議長国（オランダ）、幹事国（オランダ）
- －SC3（環境ラベル）：議長国（オーストラリア）、幹事国（オーストラリア）
- －SC4（環境パフォーマンス評価）：議長国（アメリカ）、幹事国（アメリカ）
- －SC5（ライフサイクルアセスメント）：議長国（ドイツ）、幹事国（フランス）
- －SC7（温室効果ガス及び関連事項）：議長国（マレーシア）、幹事国（カナダ）
- －TCG（用語）：議長国（ノルウェー、アルゼンチン）、幹事国（ノルウェー）
- －WG7（環境側面の製品規格への導入）：議長国（デンマーク）、幹事国（ドイツ、コロンビア）
- －WG8（マテリアルフローコスト会計）：議長国（日本、ブラジル）、事務局（日本）

注：TC、SC1、SC2、TCG、WG7 の国内審議団体は、財団法人日本規格協会

SC3、SC4、SC5、SC7、WG8 の国内審議団体は、社団法人産業環境管理協会

(2) 対象としている TC/SC/WG の最近の動向（規格化方針・運営方針等）

NWIP に対して、規格のニーズを見極めつつ対処するとともに、ニーズの高い規格の開発については積極的に参画する。

特に、次の規格の開発に当たっては、積極的にリードして行く。

- ・カーボンフットプリントの算定・表示に関する規格
- ・マテリアルフローコスト会計（MFCA）

この TC で重要なのは、TC と SC1 の議長と幹事国ポストであるが、TC については名誉ポストとしてカナダが、SC1 については実質的なポストとしてイギリスが、多大なリソースを投入して確保しているところ。

4. 我が国の活動実績

(1) 全体概要

- ・カーボンフットプリントの算定・表示に関する規格の開発

2008 年 6 月のボゴタ会合において、我が国をはじめ関係国が共同で国際標準化作業の開始を提案し、2008 年 11 月に承認されたもの。我が国は、「低炭素社会づくり行

動計画（2008年6月閣議決定）」に基づき、国内の取組等を踏まえ積極的に貢献しているところである。現在、第一次作業原案（WD.1）の作成が進められている。

- ・マテリアルフローコスト会計（MFCA）の開発
2007年6月に閣議決定された「イノベーション25」及び2007年7月に産業構造審議会産業技術分科会がとりまとめた「イノベーションの創出の鍵とエコイノベーションの推進」の一環として我が国からNWIP（New Work Item Proposal:新規作業項目提案）を行い、2008年3月に承認されたもの。現在、CD文書であり、セクレタリー及びコンビナーを日本が務め、規格開発をリードしている。

(2) 活動実績

- ・TC207 総会（コロンビアのボゴタ）には日本から16名出席。
- ・TC207/SC7 等総会（マレーシアのコタキナバル）には、22名出席。

5. 我が国の活動計画

(1) 全体概要

TCレベルでは、6月にカイロ（エジプト）で総会が開催される。

- ・日本が幹事と主査を務めるマテリアルフローコスト会計（MFCA）に関する第3回の国際WGを、6月にカイロで開催する。
- ・カーボンフットプリントの算定・表示に関する規格の開発について、WD化、CD化等をリードする。
- ・ISO14006（環境マネジメントシステム—エコデザインの指針）の開発について、2009年には、6月のカイロ（エジプト）会合の次に、12月に東京でWGを開催する予定。

(2) 活動計画

①提案済規格の予定

表1については、既に規格案を提案済であり、2011年の国際規格の発行を目指して引き続きリードして行く。

表 1

TC	SC	WG	規格名称
207	7	2	製品のカーボンフットプリント—パート1:定量化
207	7	2	製品のカーボンフットプリント—パート2:コミュニケーション
207		8	マテリアルフローコスト会計—一般的枠組み

(3) 中長期計画

上記(2)の表1の規格開発において、引き続き、リードして行く。

6. 参考資料集

(1) TC/SC等活動状況

ISO/IEC	TC 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加地位	国内審議団体	幹事国	日本議長	日本主査	重点分野
ISO	207			環境マネジメント	P	(財)日本規格協会、(社)産業環境管理協会	カナダ			◎
	207		8	マテリアルフローコスト会計	P	(社)産業環境管理協会	日本		○	◎

注) ◎印がついているのが重点分野 日本議長、主査には○印

(2) 2008年活動実績データ

①提案規格数 新規2件

ISO/IEC	TC	SC	WG	規格名称	新規・改正の別
ISO	207	7	2	カーボンフットプリント(2件)	新規

注) 改正は▲印

②国際会議実績

a) 参加実績 2回 延べ 38人

ISO/IEC	TC	会議回数	参加人数
ISO	207	2	38

b) 日本での開催実績 参加者 約20人

ISO/IEC	TC	SC	WG	開催地	開催期間
ISO	207		8	東京	2008.11.26-28

③幹事国・議長等引受実績

ISO/IEC	TC	SC	WG	幹事・議長・主査の別
ISO	207		8	幹事、主査

4. ISO/TC210 (医療器具の品質マネジメントと関連する一般事項)/WG1 (品質システムの医療機器への適用)

1. 分野の全体概要・最近の動向

医療機器に関するマネジメントシステム規格の開発は、ISO13485 の改正及び ISO/TR14969 の開発が完了しており、現在、一段落しているところ。

ISO13485 の次期改正について、この規格のベースになっている ISO9001:2008 の改正内容を踏まえて議論を開始される予定。

国内審議団体は、日本医療機器産業連合会。政府部門としては、厚生労働省と経済産業省とが連携を取りながら対応中。

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

当該分野では、ISO13485の次期改正に向けて、医療機器における規制等の動向を注視して行く。

3. 重点TCの活動状況

（1）対象としているTC/SC/WG番号及び名称

TC 210（医療機器の品質管理と関連する一般事項）は、「医療機器の品質管理の分野での要求事項に関する規格及びその適用指針」を制定する技術委員会であり、議長国はイギリス、幹事国はアメリカである。TCの下に5つの作業班（WG）がある。WG1は、このうちの1つ。

－WG 1（品質システムの医療機器への適用）：コンビナー（アメリカ）

（2）対象としているTC/SC/WGの最近の動向（規格化方針・運営方針等）

WG1（品質システムの医療機器への適用）において、次のISとTRを開発しているところ。

- ・ ISO13485：2003（医療機器－品質マネジメントシステム－規制目的のための要求事項）
- ・ ISO/TR14969：2004（医療機器－品質マネジメントシステム－ISO13485を適用するための指針）

4. 我が国の活動実績

（1）全体概要

WG1では、ISO9001:2000の2008年10月の改正に伴い、ISO13485:2003の見直しの検討が行われる予定。

（2）活動実績

2008年の国際会議開催実績なし。

5. 我が国の活動計画

（1）全体概要

現行のISO13485は、2003年に改正されていて、既に5年が過ぎているところ。この規格は、ISO9001:2000をベースに開発されているため、ISO9001の2008年版の発行に伴った改正作業が、2009年中に開始されることも考えられる。ISO13485を改正することが決まった際には、積極的に対処する。

（2）活動計画

ISO/TC210の次期総会が、2009年5月にアメリカで開催される予定なので、必要に応じて対処方針の議論等を行う。

(3) 中長期計画

ISO13485 の改正作業が開始された場合には、積極的に参画して行く。

6. 参考資料集

ISO /IEC	TC 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加 地位	国内審議団体	幹事 国	日本 議長	日本 主査	重点 分野
ISO	210	1			P	日本医療機器産業 連合会	アメリ カ			◎

注) ◎印がついているのが重点分野 日本議長、主査には○印

5. ISO/TC225 (市場調査サービス要求)

1. 分野の全体概要・最近の動向

この TC では、市場調査に関する次の 2 つの規格を開発しているところ。

- ・ ISO20252 (市場・世論・社会調査—サービス要求事項) (2006 年 4 月発行)
- ・ ISO26362 (マーケット、世論及び社会調査におけるアクセスパネル—用語及びサービス要求) (2009 年 1 月発行)

また、この TC では、ISO20252 規格を使用した製品認証のための審査基準の適用ガイドや各国での認証状況などについて幅広い意見交換を行っている。

2. 重点 TC の選出及び国際標準化戦略 (中期的計画及び課題)

ISO20252 の次期の改正の議論に参画しつつ、ISO20252 を使用した製品認証制度の国際的な構築状況を見守る。

3. 重点 TC の活動状況

(1) 対象としている TC/SC/WG 番号及び名称

TC225 : "Market, opinion and social research (市場・世論・社会調査)"

(2) 対象としている TC/SC/WG の最近の動向 (規格化方針・運営方針等)

ISO20252 の次期の改正の議論に参画する。

4. 我が国の活動実績

(1) 全体概要

2008 年は、ISO26362 の開発に積極的に参画した。

また、ISO20252 の認証が本格的に開始されることに伴い、我が国における同制度の普及のために、第三者認証制度の構築に向けた議論を始めている。具体的には、認定機関、認証機関等との協議を開始するとともに、ISO20252 の認証取得予定者に向けた解説書の作成への着手等を行っている。

(2) 活動実績

①国際会議参加実績

TC225/WG2 : 2008 年 5 月 16~21 日 (於シドニー) : 2 名参加

日本での国際会議開催実績として、第 4 回 WG2 は、2007 年 4 月に東京で開催しているところ。

②上記以外での活動実績

ISO20252 の発行後、認証に用いる審査基準 (ガイド) として製品認証基準である ISO ガイド 65 の使用等について、主要各国と調整等を行った。

③上記を総合した我が国の活動実績の評価

日本のマーケティング・リサーチ業界の特質を力説し、部会において前向きな議論が進められるよう十二分にプレゼンスを発揮している。

5. 我が国の活動計画

(1) 全体概要

TC225 総会を、2008 年 5 月にシドニー (オーストラリア) において開催され、日本からもエキスパートが参加して、ISO26362 の開発の議論を行った。また、ISO20252 を使用した認証制度の構築に向けた議論等を行った。

(2) 中長期計画

ISO20252 の次期の改正の議論に参画する。

6. 参考資料集

(1) TC/SC 等活動状況

ISO / IEC	TC 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加地位	国内審議団体	幹事国	日本議長	日本主査	重点分野
ISO	225			市場調査サービス要求	P	(社) 日本マーケティング・リサーチ協会	スペイン			◎

注) ◎印がついているのが重点分野 日本議長、主査には○印

(2) 2008 年活動実績データ

①国際会議実績

a) 参加実績 1 回 延べ 2 人

ISO/IEC	TC	会議回数	参加人数
ISO	225	1	2

6. ISO/PC236 (プロジェクトマネジメント)

1. 分野の全体概要・最近の動向

ISO21500 (プロジェクトマネジメントのガイド) を、2012 年の発行を目指して開発中。現在、WD3 を開発中であり、CD 文書化を目指しているところ。

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

日本にとって、使いやすい規格にするため、積極的に参画する。

3. 重点TCの活動状況

- (1) 対象としている TC/SC/WG 番号及び名称
PC236（プロジェクトマネジメント）
- (2) 対象としている TC/SC/WG の最近の動向（規格化方針・運営方針等）
ISO21500 の開発。現在、WD3 を開発中であり、CD 文書化を検討中。

4. 我が国の活動実績

- (1) 全体概要
積極的に参画。
- (2) 活動実績
 - ①新規提案数
2008 年度の新規提案はなし。
 - ②国際会議参加実績
2008 年 4 月 第 2 回 ISO/PC236 総会（ワシントン（アメリカ））
2008 年 11 月 第 3 回 ISO/PC236 総会（マインスバッハ（ドイツ））
なお、2009 年 6 月に第 4 回 ISO/PC236 総会を東京（航空会館）で開催する予定。
 - ③上記以外での活動実績
第 1 回 ISO/PC236 ロンドン総会（2007 年 10 月）が開催される前から、イギリスとアメリカにそれぞれミッションを派遣し、バイ会合を開催する等積極的に参画しているところ。

5. 我が国の活動計画

- (1) 全体概要
日本にとって、使いやすい国際規格になるように積極的に開発に参画しているところ。
2009 年 6 月には、CD 文書化を検討する第 4 回 ISO/PC236 総会の東京開催を積極的に各国と調整したところで、PC236 における日本のプレゼンスの一層の向上も目指しているところ。
また、DIS 文書化の審議がされる可能性のある第 5 回 ISO/PC236 総会（2009 年 1 月にブラジルで開催予定）にもエキスパートを派遣して、規格開発に積極的に参画して行く予定。
- (2) 活動計画
日本としては、特にプロジェクトマネージャのスキル等について、適切な規定がされるよう引き続きリードして行く。
- (3) 中長期計画

ISO21500 の 2012 年（予定）の発行後の普及についても配慮しながら、規格開発に関与して行く。

6. 参考資料集

(1) TC/SC等活動状況

ISO/IEC	TC番号	SC番号	WG番号	名称	参加地位	国内審議団体	幹事国	日本議長	日本主査	重点分野
ISO	236			プロジェクトマネジメント	P	(独) 情報処理推進機構	アメリカ			◎

注) ◎印がついているのが重点分野 日本議長、主査には○印

(2) 2008年活動実績データ

①国際会議実績

a) 参加実績 2回 延べ14人

ISO/IEC	TC	会議回数	参加人数
ISO	236	2	14

7. ISO/PC241 (道路交通安全マネジメント)

1. 分野の全体概要・最近の動向

この PC は、2008 年 2 月に、道路交通安全マネジメントに関する国際規格を開発するために設置された。

ISO39001 (道路交通安全マネジメントシステム—要求事項及び利用の手引) として、2009 年末の発行を目指しているところ。

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略 (中期的計画及び課題)

国際規格案は、WD 段階にあり、現在、国内審議体制の構築の議論等を行っているところ。

3. 重点TCの活動状況

(1) 対象としている TC/SC/WG 番号及び名称

PC241 道路交通安全マネジメント

(2) 対象としている TC/SC/WG の最近の動向 (規格化方針・運営方針等)

現在、WD 文書であり、主な議論としては、道路交通安全パフォーマンス指標の規定の仕方等。

4. 我が国の活動実績

(1) 全体概要

国土交通省、内閣府、警察庁、経済産業省等の関係省庁、及び関連の産業界等と、対応について議論してきているところで、2008年には、0メンバーとして登録を行った。

今後の対応の仕方等については、引き続き検討中。

(2) 活動実績

2009年2月に、マレーシアのセランゴールで開催された第2回 ISO/PC241 総会へ、我が国からオブザーバとして参加し、規格の開発状況について確認を行った。

5. 我が国の活動計画

(1) 全体概要

このPCへの我が国としての関わり方について、引き続き検討を行う。

PC241の次回の総会は、2009年9月にカナダにおいて開催される予定。

(2) 活動計画

国内での検討体制の構築について議論を行う。

(3) 中長期計画

国際規格の開発状況について、主要国と意見交換等を行いながら状況を確認しつつ、国内体制の構築について、議論を行う。

6. 参考資料集

(1) TC/SC等活動状況

ISO/IEC	TC番号	SC番号	WG番号	名称	参加地位	国内審議団体	幹事国	日本議長	日本主査	重点分野
ISO	241			道路交通 安全マネジメント	0	(独)自動車事故 対策機構	スウェーデン			◎

注) ◎印がついているのが重点分野 日本議長、主査には○印

(2) 2008年活動実績データ

①国際会議実績

a) 参加実績1回 延べ3人

ISO/IEC	TC	会議回数	参加人数
ISO	241	1	3

8. ISO/PC242 (エネルギーマネジメント)

1. 分野の全体概要・最近の動向

2008年2月に、エネルギーマネジメントシステムに関する国際規格を開発するためのPCとして設立された。

ISO50001 (エネルギーマネジメントシステム—要求事項及び利用の手引)として、2010年

末の発行を目指しているところ。

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

エネルギーマネジメントの分野については、国際的なエネルギー市場、エネルギー需給構造等の問題から、我が国の多くの産業界にとって、大変重要なテーマである。

また、我が国では、長年の省エネ法の優れた運用実績等から、エネルギーマネジメント分野においては、世界の先端を走っているところ。

国際規格の開発の作業を通して、我が国の優れた省エネ法の考えを、少しでも多く、国際規格に盛り込んで行く。

3. 重点TCの活動状況

(1) 対象としているTC/SC/WG番号及び名称

PC242 エネルギーマネジメント

(2) 対象としているTC/SC/WGの最近の動向（規格化方針・運営方針等）

2009年3月に、ブラジルで開催された第2回ISO/PC242総会において、CD文書化することが決定された。

我が国も方針としては、規格利用者の利益に沿うように、我が国で運営実績のある省エネ法の考え方を、少しでも規格の中に盛り込んで行くとともに、既存の国際規格であるISO9001、ISO14001との整合性を確保する。

4. 我が国の活動実績

(1) 全体概要

2008年については、ISO/PC242対応のための委員会の設置等、国内体制を構築するとともに、第1回ISO/PC242総会に先立ちアメリカ等との積極的な意見交換等を行い、第1回会合、第2回会合に臨んだ。

(2) 活動実績

2008年9月 ワシントン会合（アメリカ） 6名

2009年3月 リオデジャネイロ会合（ブラジル） 10名

5. 我が国の活動計画

(1) 全体概要

省エネ法の考えを、積極的に国際規格に盛り込んでいくため、産業界、関連団体等との連携を密に取って活動を行う。

(2) 活動計画

2009年11月に、第3回会合が、ロンドン（イギリス）で開催される予定。

近く発行されるCD文書作成に対する引き続き積極的な貢献とともに、次回会合に向けた対策を、各国と調整を行いつつ行う。

(3) 中長期計画

2010 年末の ISO50001 の発行まで、積極的な参画を続ける。

6. 参考資料集

(1) TC/SC等活動状況

ISO/IEC	TC 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加地位	国内審議団体	幹事国	日本議長	日本主査	重点分野
ISO	242			エネルギーマネジメント	P	(財) エネルギー総合工学研究所	アメリカ			◎

注) ◎印がついているのが重点分野 日本議長、主査には○印

(2) 2008年活動実績データ

①国際会議実績

a) 参加実績 2回 延べ16人

ISO/IEC	TC	会議回数	参加人数
ISO	242	2	16

9. ISO/IEC JTC1/SC7/WG25 (IT サービスマネジメント)

1. 分野の全体概要・最近の動向

SC7 ではソフトウェア技術の標準化を行っているが、その中の WG25 (IT サービスマネジメント) では、以下の規格について審議を行っている。

- ISO/IEC20000-1 (情報技術—サービスマネジメント—第1部:仕様) → FDAM (Final Draft Amendment: 最終修正原案) (改正)
- ISO/IEC20000-2 (情報技術—サービスマネジメント—第2部:実践のための規範) → WD (改正)
- TR20000-3 (Guidance on compliance with ISO/IEC20000-1) → DTR (Draft Technical Report: 技術報告書原案) (制定)
- TR20000-4 (Process Reference Model) → WD (制定)
- ISP20000-5 (Incremental conformity based on ISO/IEC20000) → PDTR (Proposed Draft Technical Report: 提案技術報告書原案) 作成中 (制定)
- ISO/IEC38500 (IT (情報技術) コーポレートガバナンス)

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略 (中期的計画及び課題)

現在新規制定されている規格は、「1. 分野の全体概要・最近の動向」に記述してあるが、その中に日本からの新規提案はない。今後国際標準化すべき案件がある場合には、検討を行うことが重要である。また、幹事国、SC7 の議長国にはカナダ、WG25 のコンビナーにはイギリスがなっているが、それぞれの国が要職を手放す動きはない。

3. 重点 TC の活動状況

(1) 対象としている TC/SC/WG 番号及び名称

ISO/IEC JTC1/SC7 の幹事国及び議長国並びに ISO/IEC JTC1/SC7/WG25 のコンビナー国は、以下の通りである。

ISO/IEC JTC 1/SC7 (ソフトウェア技術) : 幹事国 カナダ 議長国 カナダ

WG 25 (IT サービスマネジメント) : コンビナー イギリス

(2) 対象としている TC/SC/WG の最近の動向 (規格化方針・運営方針等)

ISO/IEC JTC1/SC7/WG25 における最近の規格化動向としては、ISO/IEC20000-1 (情報技術-サービスマネジメント-第1部:仕様) 及び ISO/IEC20000-2 (情報技術-サービスマネジメント-第2部:実践のための規範) が日本も含めた各国からの提案に従い、IS 発行後の早期の見直しに入っている。

4. 我が国の活動実績

(1) 全体概要

ISO/IEC JTC1/SC7/WG25 において現在制定及び改正中の各規格に対しては、国内対応委員会及び WG を (社) 情報処理学会内に設置しており、専門家により十分議論を行い、毎回コメントを提出しているところである。また、国際会議においては、日本コメントが規格に反映されるよう規格ごとにエキスパートを派遣し、対応を図っている。

ISO/IEC20000-2 のエディタには、吉田健一郎氏 ((財) 日本品質保証機構) が就任し改正作業をリードしているところ。

(2) 活動実績

国際会議参加実績

2008 年 4 名

5. 我が国の活動計画

(1) 全体概要

2008 年に引き続き開発中の規格に対して日本国内で十分に議論を行い、積極的に日本コメントを出して行く。

(2) 活動計画

国際会議においては、日本コメントが規格に反映されるようエキスパートを派遣し、対応を図る。各要職については、必要に応じ積極的に引受けていく予定。

(3) 中長期計画

各要職について、必要に応じ積極的に引受けていく予定。

6. 参考資料集

(1) TC/SC 等活動状況

ISO/IEC	TC 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加 地位	国内審議団体	幹事 国	日本 議長	日本 主査	重点 分野
ISO/IEC	JTC1	7	25	IT サー ビス マ ネジメ ント	P	(社)情報処理学 会	イギ リス			◎

注) ◎印がついているのが重点分野 日本議長、主査には○印

(2) 2008年活動実績データ

①国際会議実績

a) 参加実績 2回 延べ4人

ISO/ IEC	T C	会議回数	参加人数
ISO/IEC	JTC1/WG25	2	4

10. ISO/IEC JTC1/SC27/WG1 (情報セキュリティ)

1. 分野の全体概要・最近の動向

SC27(セキュリティ技術)では複数の SC で共通的に使用される情報セキュリティ技術の標準化を行っている。その中で WG1 (セキュリティ要求条件、セキュリティサービスとそのガイドライン) は、以下の規格について審議を行っている。

- －ISO/IEC27000 (情報セキュリティマネジメントシステムの概要及び用語)・FDIS (制定)
- －ISO/IEC27001:2005 (情報セキュリティマネジメントシステム－要求事項)・改正作業開始
- －ISO/IEC27002:2005 (情報セキュリティマネジメントシステムの実践のための規範)・改正作業開始
- －ISO/IEC27003 (情報セキュリティマネジメントシステム導入ガイドライン)・FCD (制定)
- －ISO/IEC27004 (情報セキュリティマネジメント－測定)・FCD2 (制定)
- －ISO/IEC27005:2008 (情報セキュリティリスクマネジメント)
- －ISO/IEC27006:2007 (情報セキュリティマネジメントシステム審査登録機関に対する要求事項)
- －ISO/IEC27007 (ISMS 監査ガイドライン)・WD (制定)
- －ISO/IEC27008 (管理策に関する監査者のガイド)・WD (制定)
- －ISO/IEC27011:2008 (テレコミュニケーションのための情報セキュリティマネジメントガイドライン)

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略 (中期的計画及び課題)

現在新規制定されている規格は、「1、分野の全体概要・最近の動向」に記述してあるが、

その中に日本からの新規提案はなく、今後国際標準化すべき案件がある場合には、検討を行うことが重要である。また、SC27 の幹事国、議長国にはドイツ、WG1 のコンビナーにはイギリスがなっているが、それぞれの国が要職を手放すとの動きはない。

3. 重点 TC の活動状況

(1) 対象としている TC/SC/WG 番号及び名称

ISO/IEC JTC1/SC27 の幹事国及び議長国は、次のとおり。

ISO/IEC JTC1/SC27 (セキュリティ技術)

幹事国：ドイツ、議長国：ドイツ

ISO/IEC JTC1/SC 27/WG1 (セキュリティ要求条件、セキュリティサービスとそのガイドライン)

(2) 対象としている TC/SC/WG の最近の動向 (規格化方針・運営方針等)

ISO/IEC JTC1/SC27/WG1 における最近の規格化動向としては、中心となる ISO/IEC27001 (情報セキュリティマネジメントシステム—要求事項) を補完するためのガイドラインとなる規格等を制定しているところである。現在制定を進めている規格としては、ISO/IEC27000 (情報セキュリティマネジメントシステムの原則及び用語)、ISO/IEC27003 (情報セキュリティマネジメントシステム導入ガイドライン)、ISO/IEC27004 (情報セキュリティ管理策の測定)、ISO/IEC27007 (ISMS 監査ガイドライン)、及び ISO/IEC27011 (テレコミュニケーションのための情報セキュリティ管理ガイドライン) がある。

4. 我が国の活動実績

(1) 全体概要

ISO/IEC JTC1/SC27/WG1 において現在制定中の各規格に対しては、国内対応委員会及び WG を (社) 情報処理学会内に設置しており、専門家により十分議論を行い、毎回コメントを提出しているところである。国際会議においては、日本コメントが規格に反映されるようエキスパートを派遣し、対応を図っている。

また、ISO/IEC27011 (テレコミュニケーションのための情報セキュリティガイドライン) については日本が editor として開発が行われた。ISO/IEC27000 (情報セキュリティマネジメントシステムの原則と用語) 及び ISO/IEC27003 (情報セキュリティマネジメントシステム導入ガイドライン) については、co-editor として要職に付き、規格の円滑な策定に貢献している。

(2) 活動実績

国際会議参加実績

2008 年 4 月 京都会議

2008 年 10 月 キプロス会議

5. 我が国の活動計画

(1) 全体概要

2007年に引き続き策定中の規格に対して、日本国内で専門家により十分に議論を行い、積極的に日本コメントを出して行く。

(2) 活動計画

国際会議においては、日本コメントが規格に反映されるよう規格ごとにエキスパートを派遣し、対応を図る。

(3) 中長期計画

各要職について、必要に応じて積極的に引受けて行く予定。

6. 参考資料集

(1) TC/SC等活動状況

ISO/IEC	TC番号	SC番号	WG番号	名称	参加地位	国内審議団体	幹事国	日本議長	日本主査	重点分野
ISO/IEC	JTC1	27	1	情報セキュリティ	P	(社)情報処理学会	イギリス			◎

注) ◎印がついているのが重点分野 日本議長、主査には○印

(2) 2008年活動実績データ

①国際会議実績

a) 参加実績 2回 延べ24人

ISO/IEC	TC	会議回数	参加人数
ISO/IEC	JTC1/SC27/WG1	2	24

b) 日本での開催実績 参加者 70人の内数

ISO/IEC	TC	SC	WG	開催地	開催期間
ISO/IEC	JTC1	27	1	京都	2008年4月14~22日